

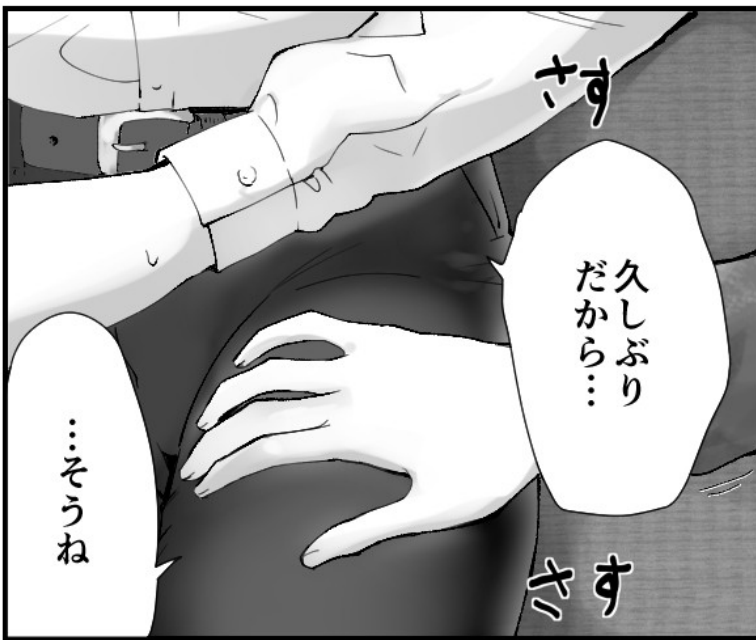
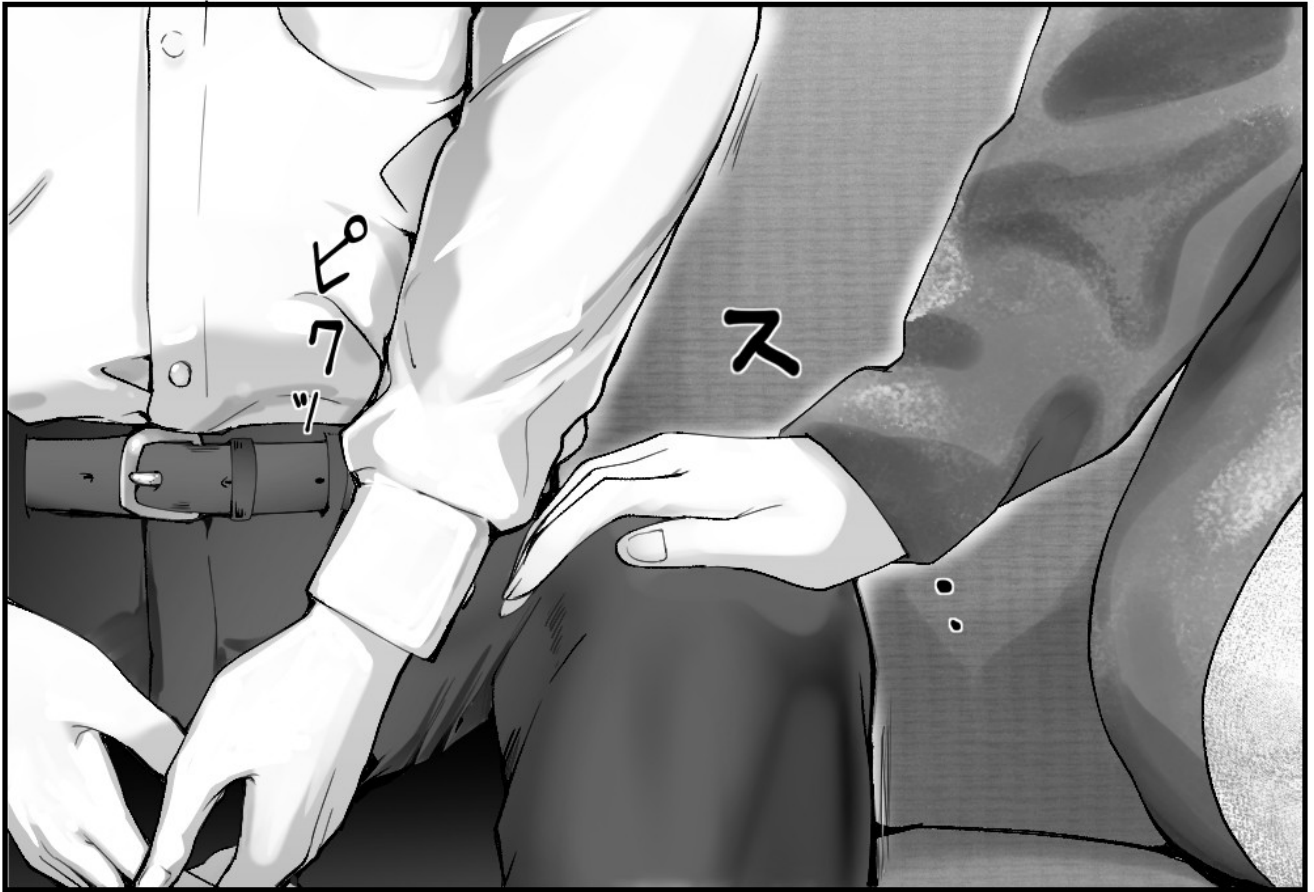
幼
な
じ
み
が

マ
マ
と
キ
っ
て
い
ま
す
。

ピンク太郎
ピンク作品置き場

10



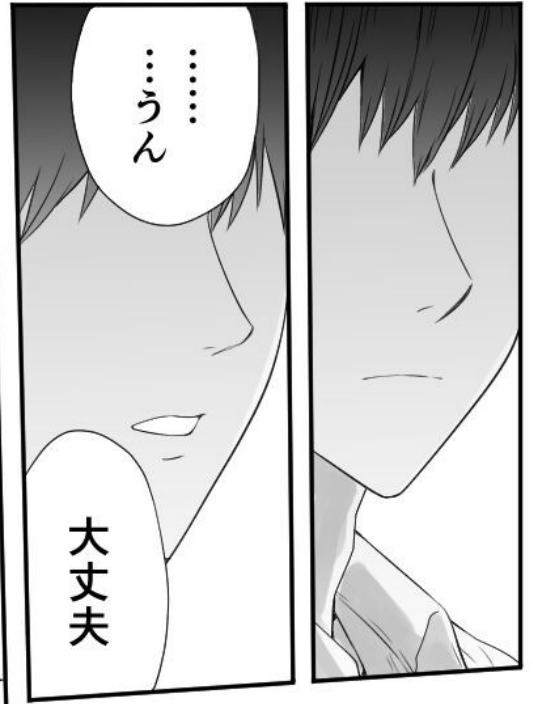


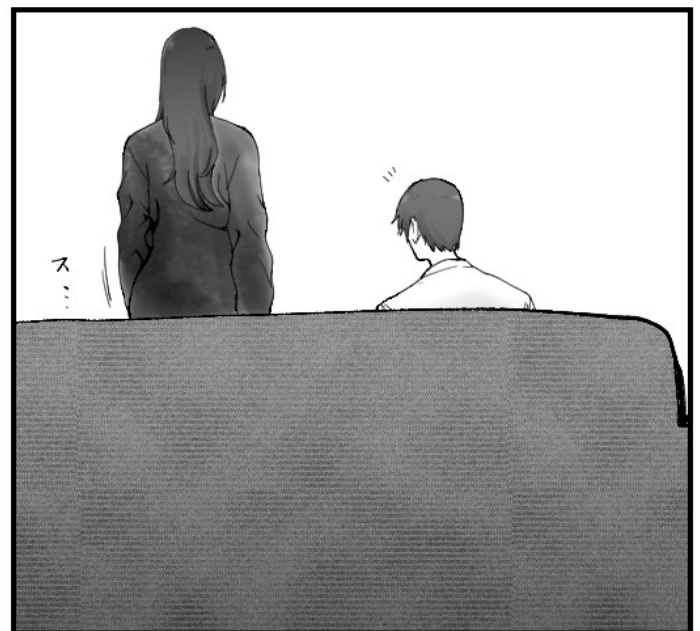
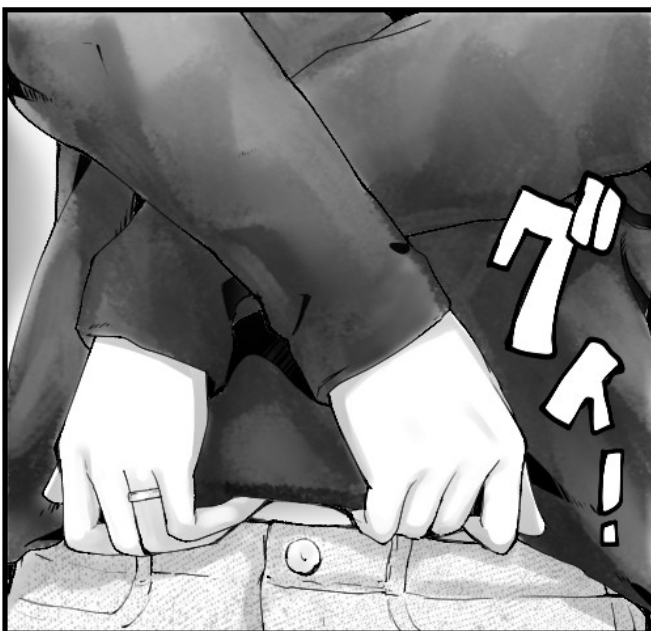
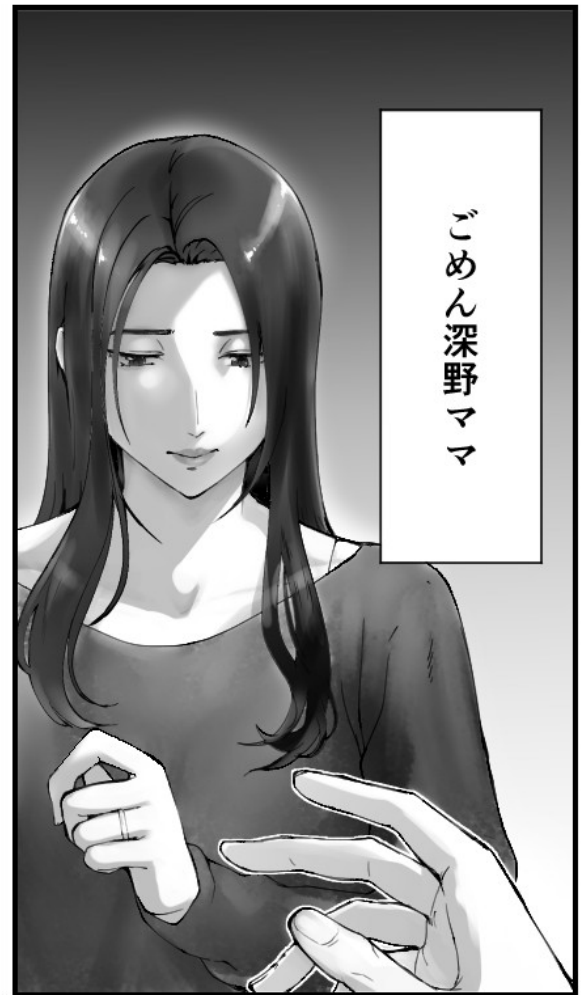
この時を



涼真くん?

.....







脱がせて♡

な



綺麗…

ムム

ムム

ムム

ムム

ムム

ムム

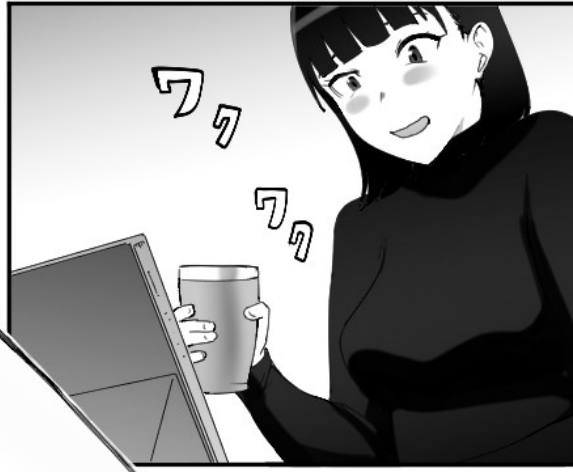




どうかな…

うん…

グイッ

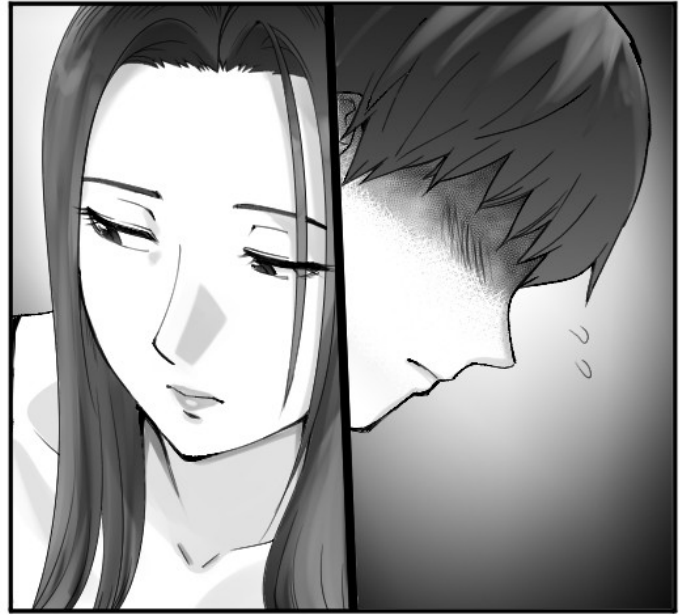


綺麗だよ

フフ…

フフ…

ス



思いっきり
気持ち良くなつて
終わりましたよ？

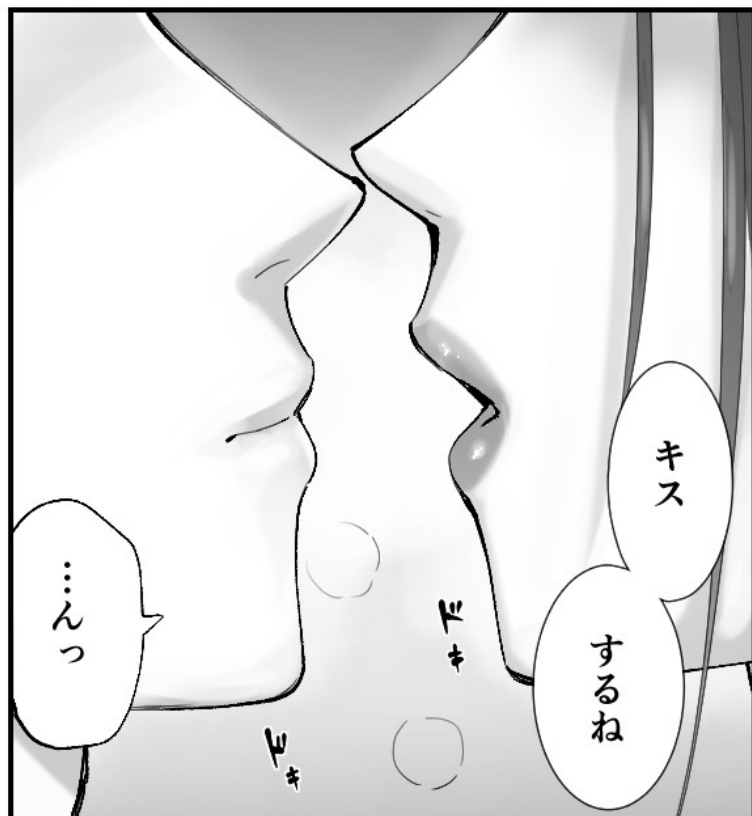
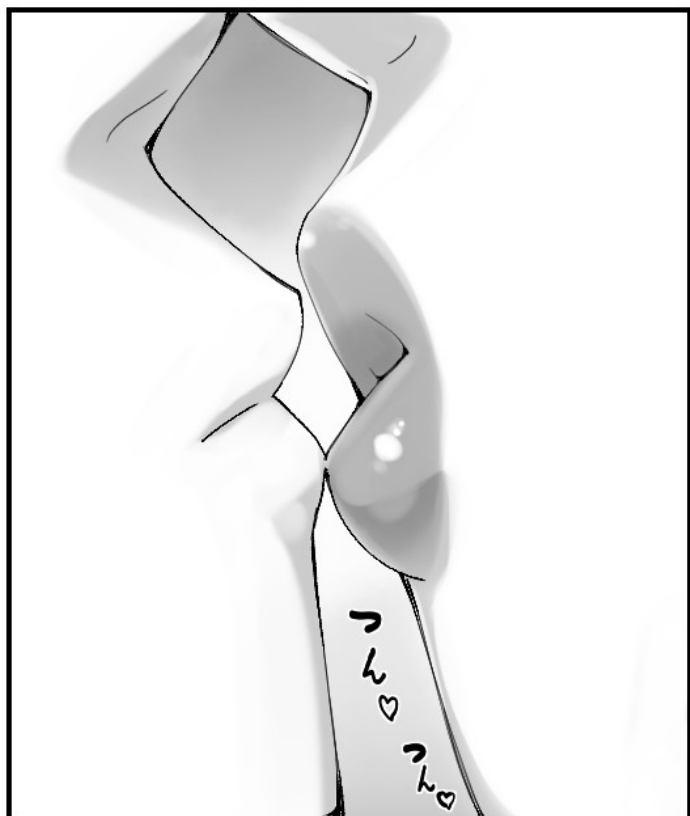
最後だから…



…うん



…





はあ、

舌…

舌出して…っ

はあ

くらあ

吐息が
溶け合う

むっ



ブルブル

ゆっくりと…
味わってくる…

久しぶりの
キス…

むに、

はむっ



ふん

ふん

ふん

むっ

ふん

むっ

ふん

唇と舌が
肉厚で

強烈に
吸われてるッ

ア
ン
ン

ハ
ハ

ハ
ハ

ハ
ハ

ハ
ハ

ああ…

これが深野ママだ…

ハ
ハ

ハ
ハ

ブルッ

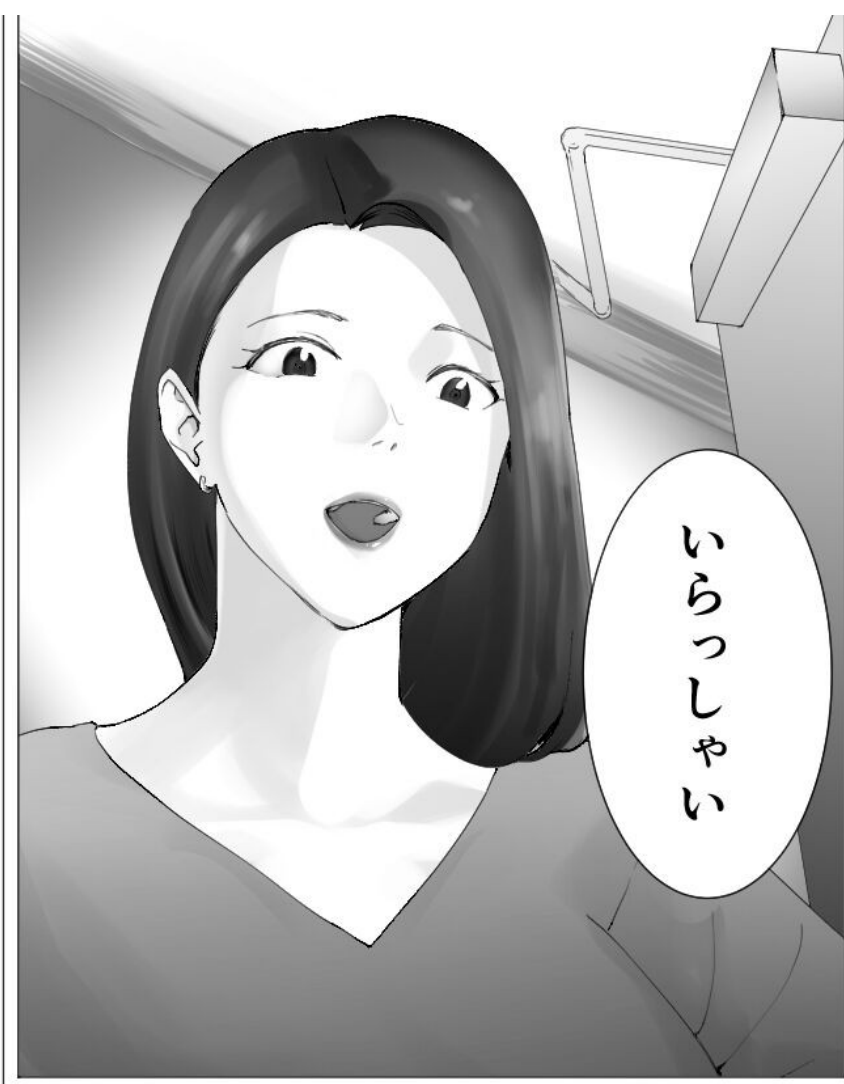
ハ
ハ

ハ
ハ

ハ
ハ

ハ
ハ

オ
ロ
オ



いらっしやい



抑え込んでいた
思い出が浮かんでくる……





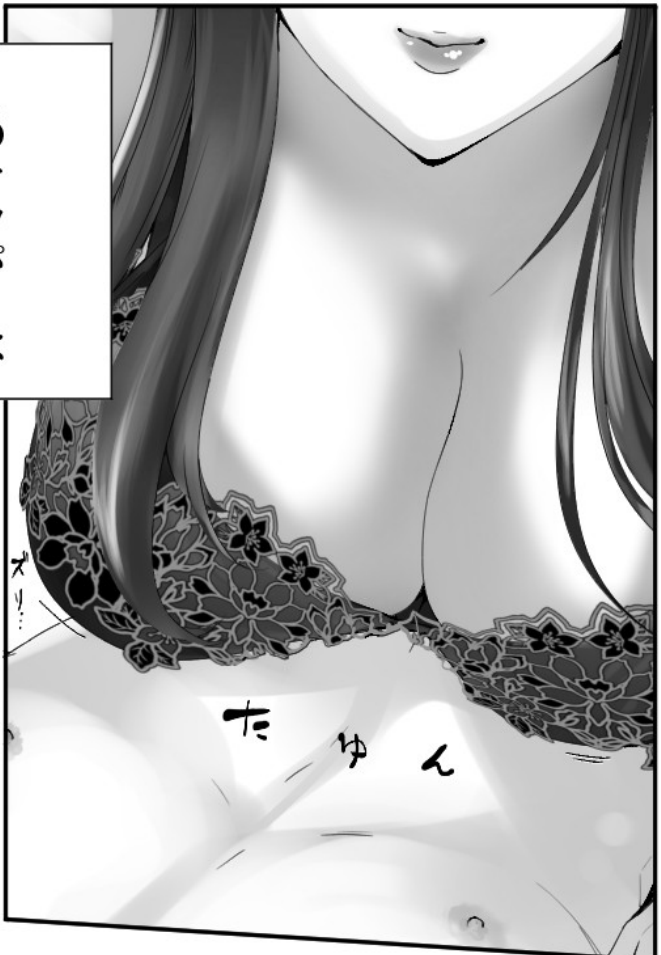
幼い頃の記憶が
フラッシュバックする



このリビングでも
何度も何度も
エッチしたんだ



このオツパイは
大好きだった



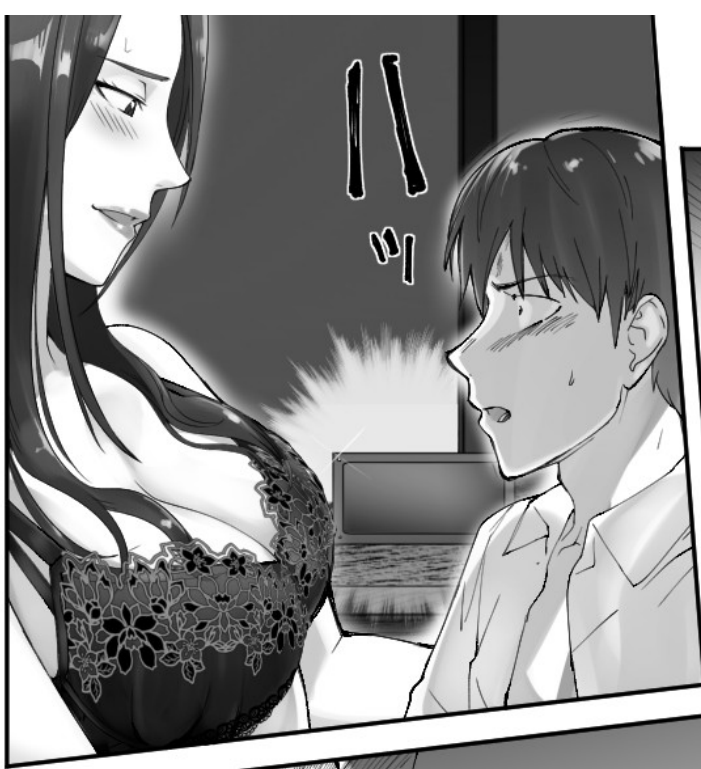
赤ちゃんみたいに
甘えて吸うのが
心地よくて
大好きだった



あの頃のように
吸ってみたい…

思い切り
甘えて…でも
もうそんな年じゃ
ないし……





今日だけは
あの頃のように
思いつきり甘えても…



ダメだ！
やっぱ
恥ずかしい！



涼真くん
思い出して…



鎖骨♥

そして
思い知って
欲しい



匂い

味

肌質

感触

私との
セックス



私がどれほど

待ち焦がれて
いたのか

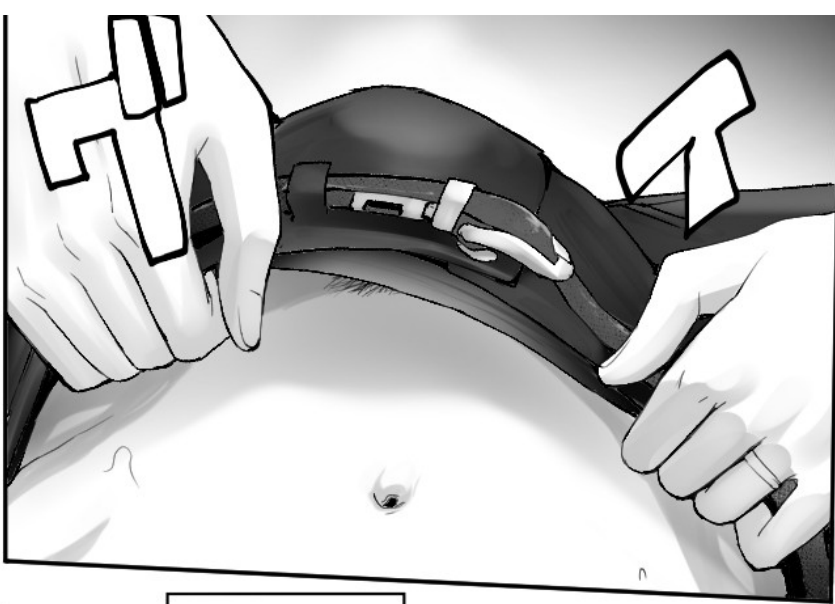


この身体を

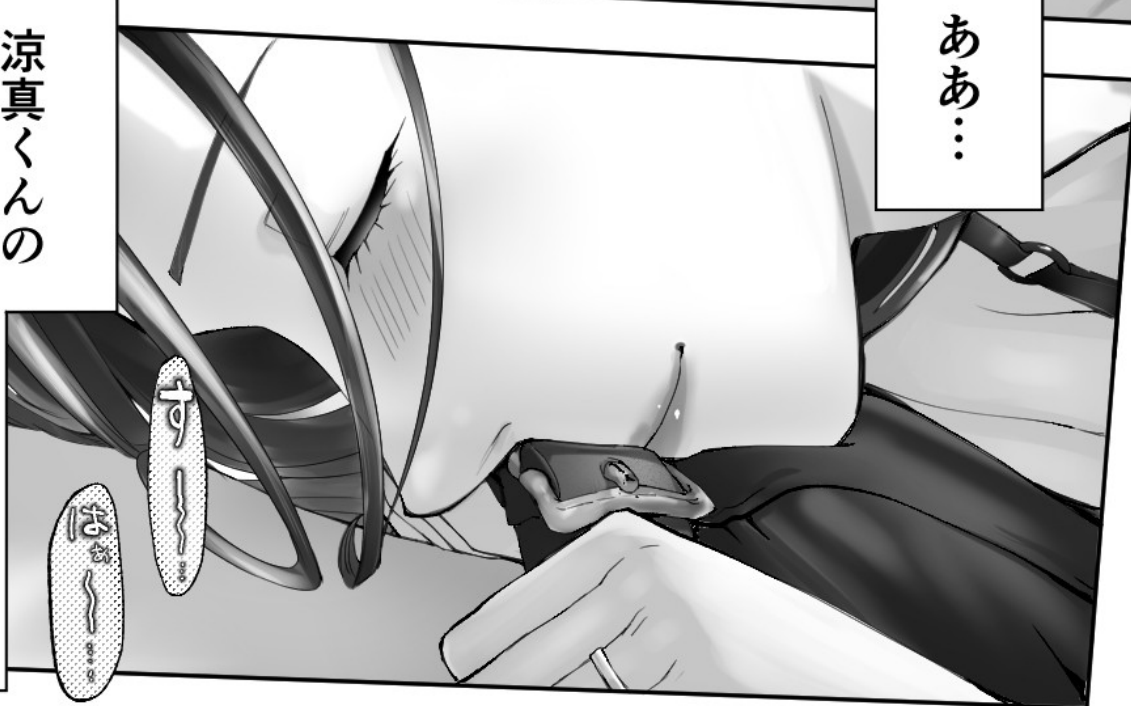
貴方を

どれだけ
求めていたかを

ママ
嬉しい♡

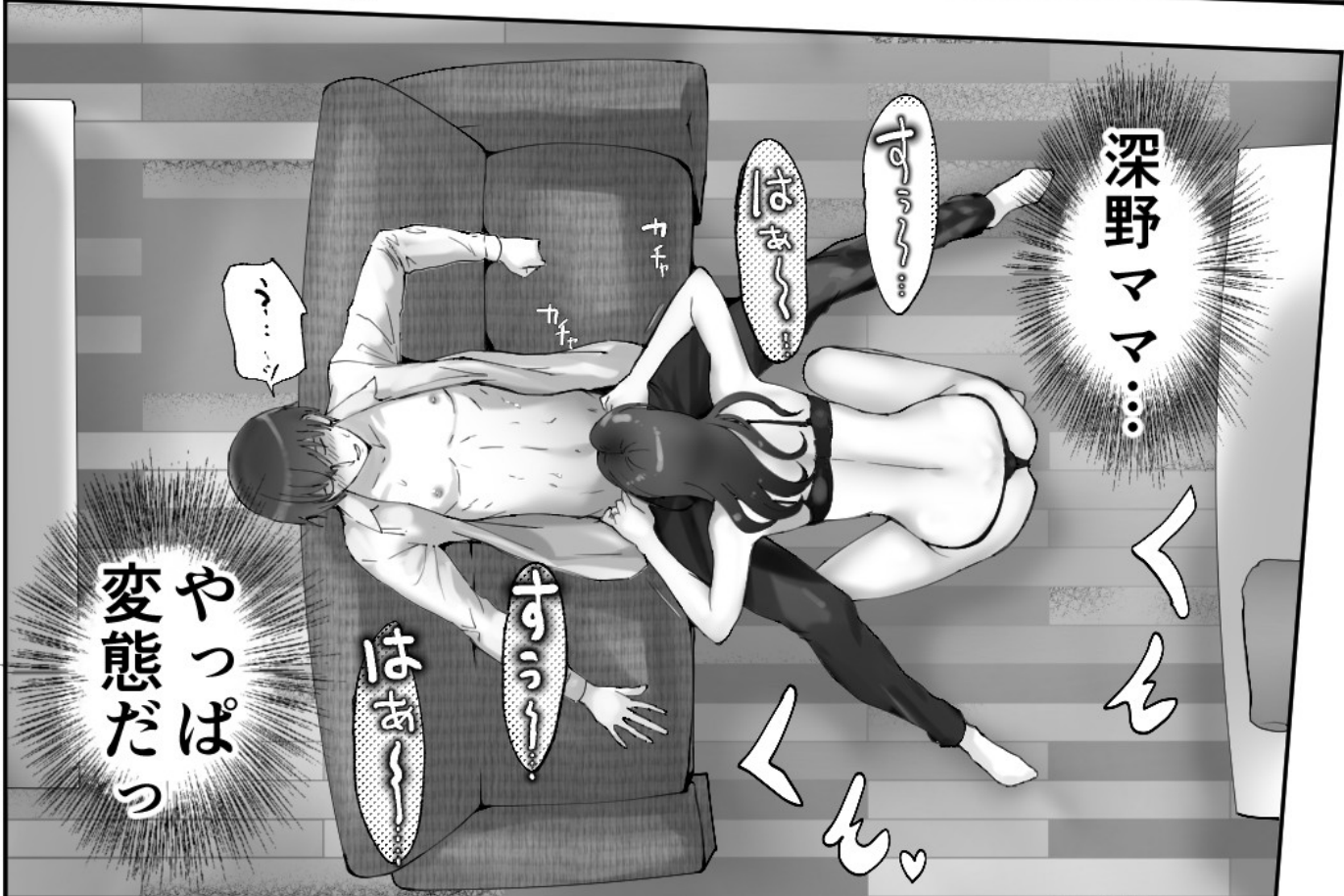


ああ…



涼真くんの
身体……♡

もうオスの香りが
してきてる♡



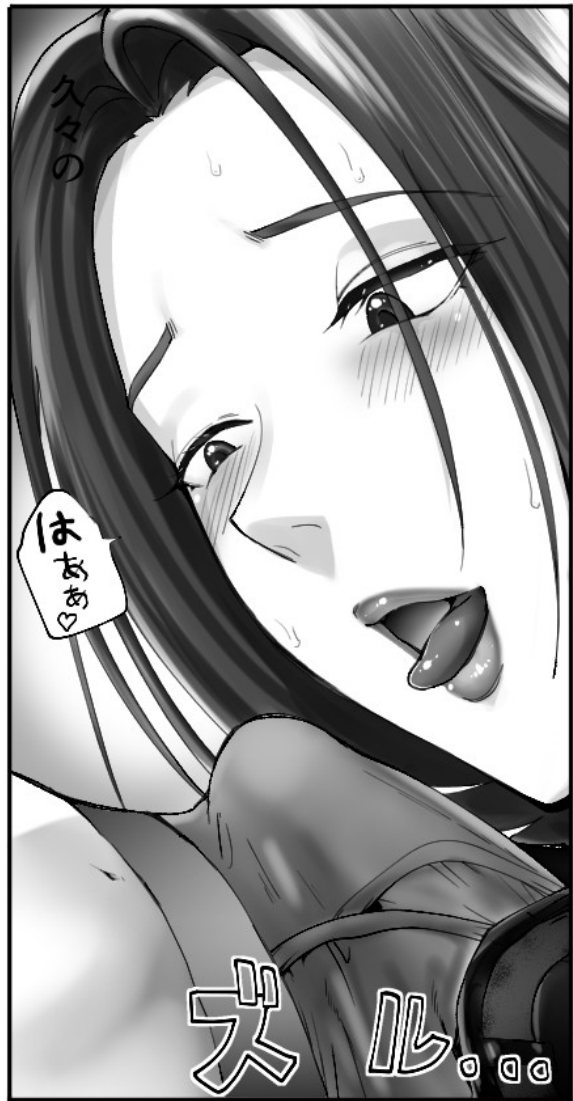
深野ママ…

やっぱ
変態だっ



涼真くんの

カチカチ ♡



はぁあ ♡

ズル



大きくなってる ♡





久々でッ

刺激が
強すぎるッ

ちゃっ

ムム

ちゃっ

ムム

ちゅ

ムム

ハア

ハア

ハア

ムム

ハア

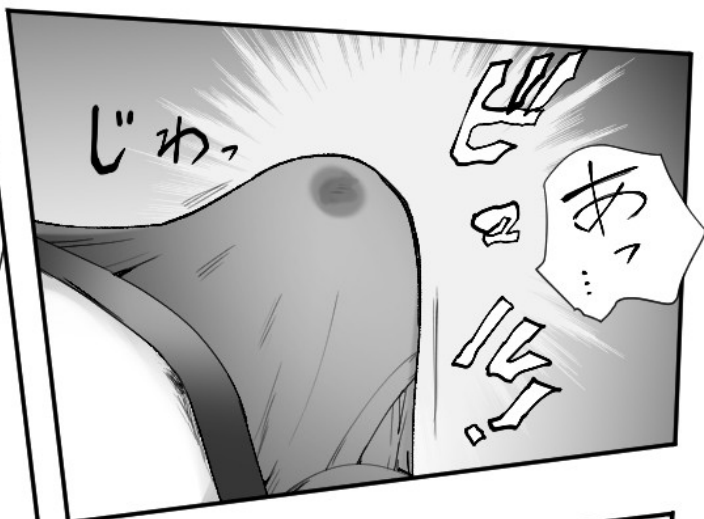
ムム

ムム

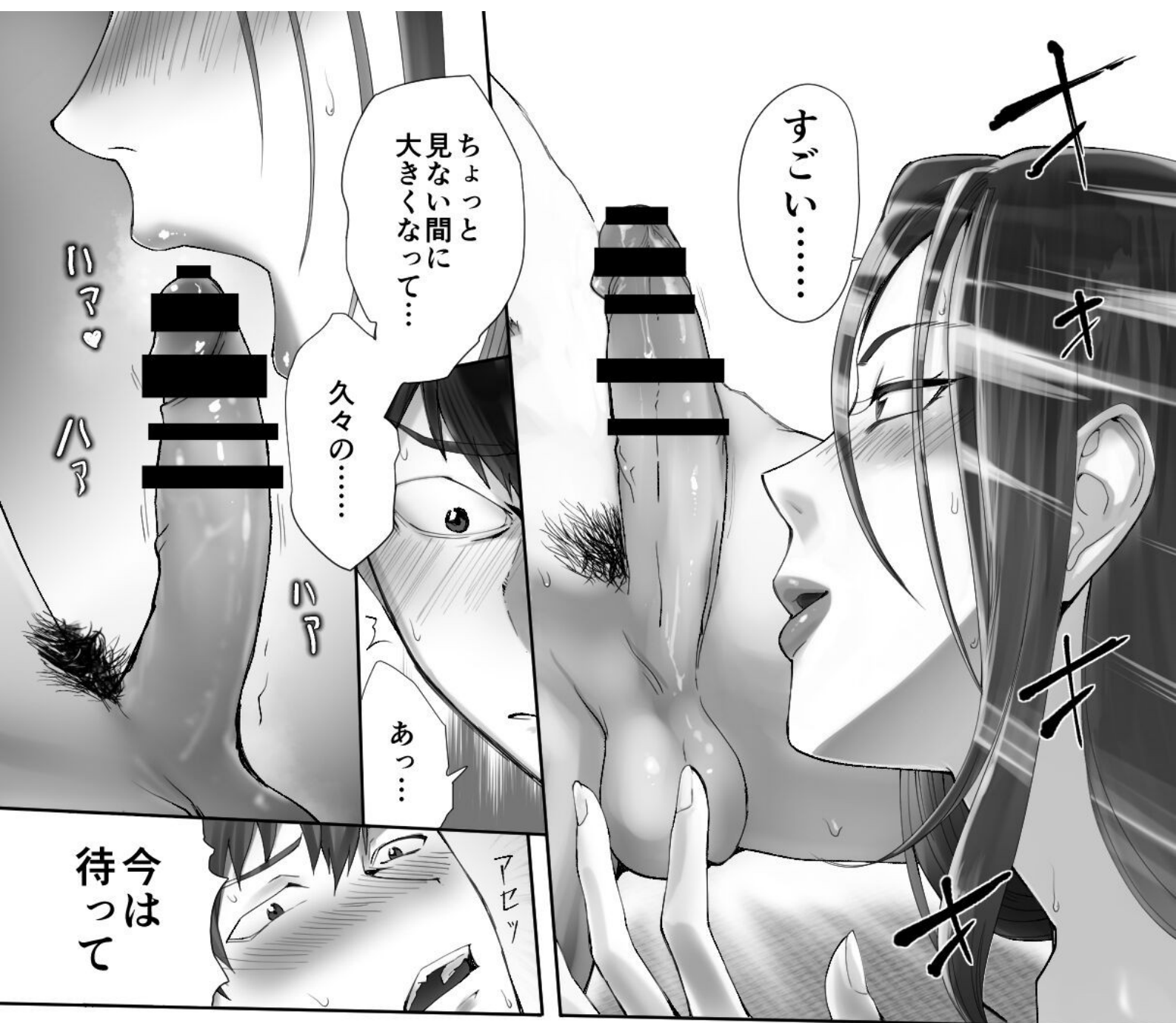
ムム

ムム

ムム







ちょっと見ない間に大きくなって…

すごい……

久々の……

あっ……

今は待って

涼真チンコオオオ♡♡♡

ちよっ

待って!

ちよっと
出しちゃった
ばかりでっ

敏感に
なあって…ツツ

ずるるるるる

キムウウ

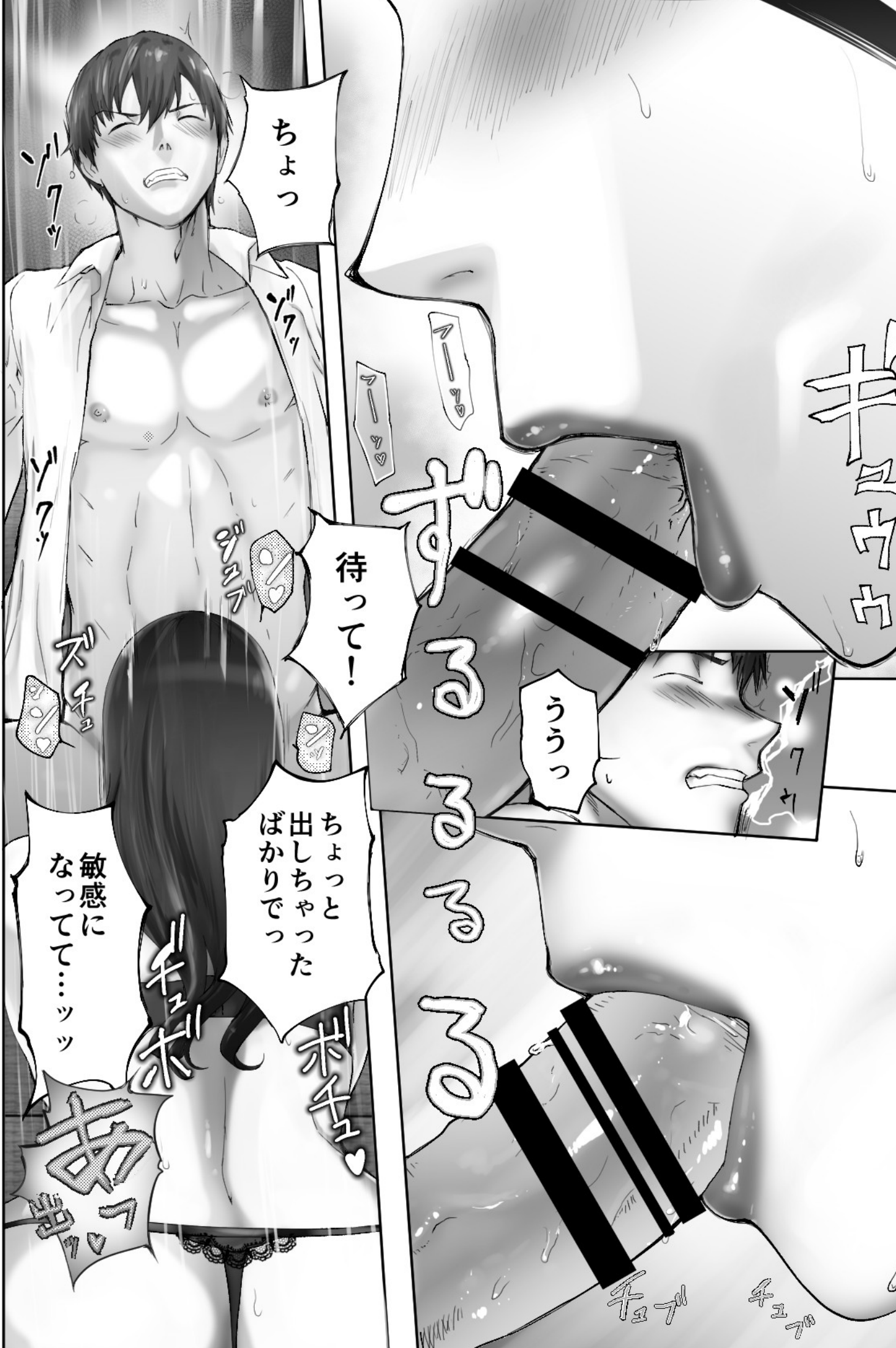
ううう

あッ

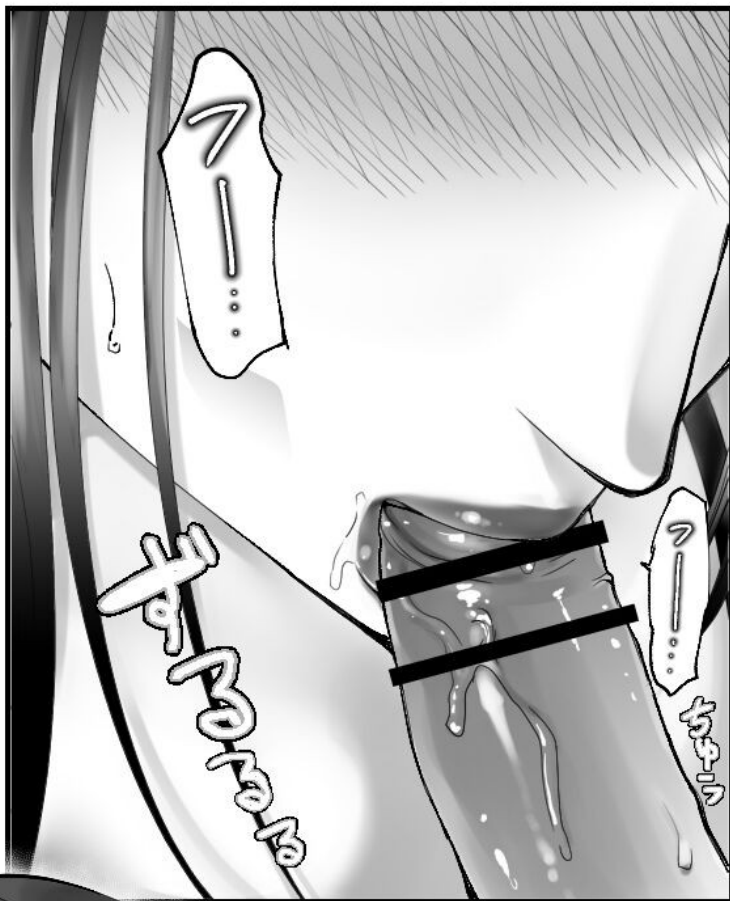
ホキョ

キョ

キョ







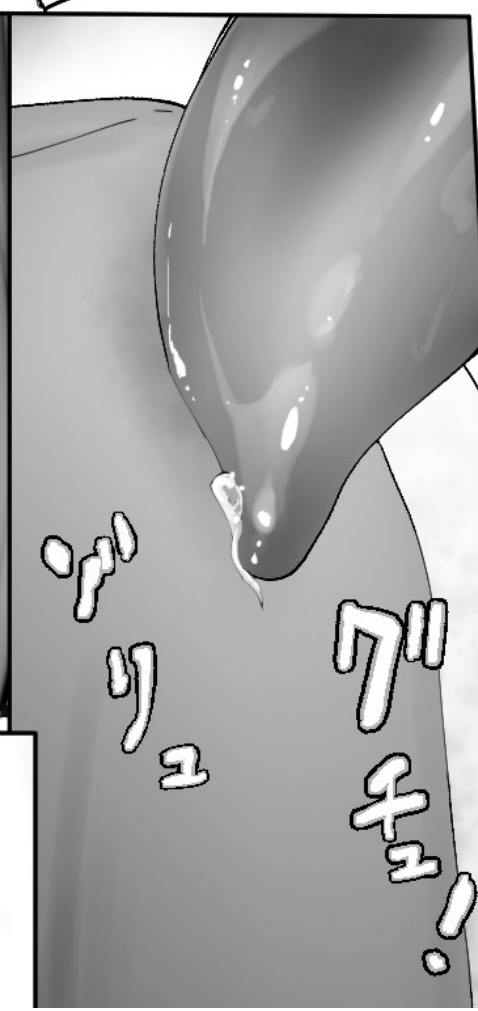
MOTTAINAI



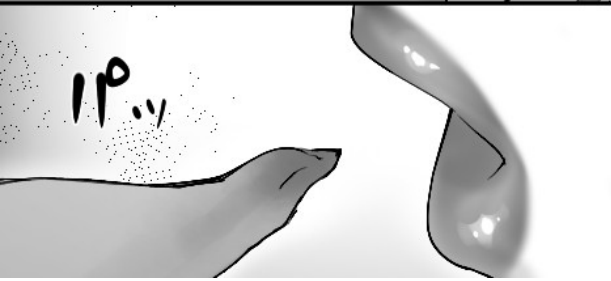
パンツに
付着した精子
もったいない!



ちゅ
ら
ら
ら



クリ
ク
チュ!



ぽっ



私も…

触って欲しいの

ヒキ

ヒキ

ヒキ

やっぱり凄すぎ
深野ママ

久々にめっちゃ
射精したわ

気持ちよかったあ…





いこのお!

もつとお♡

触つてえ♡

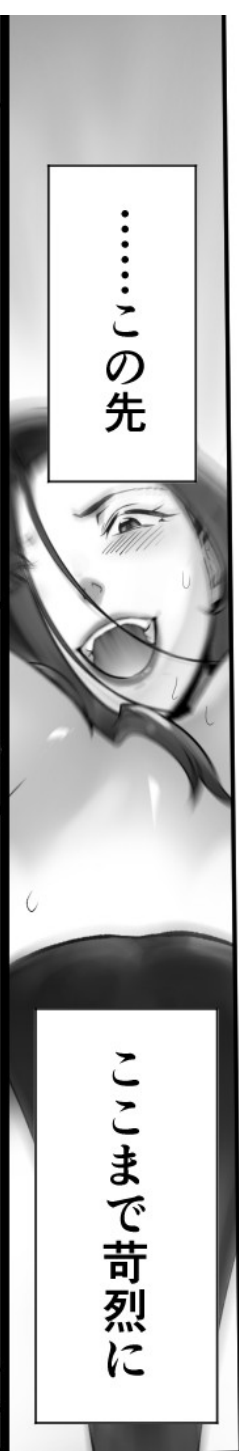
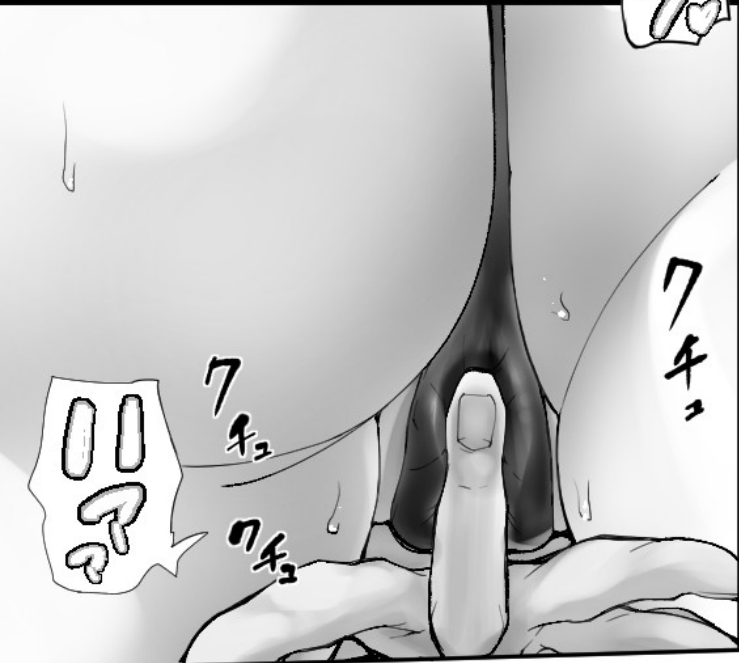
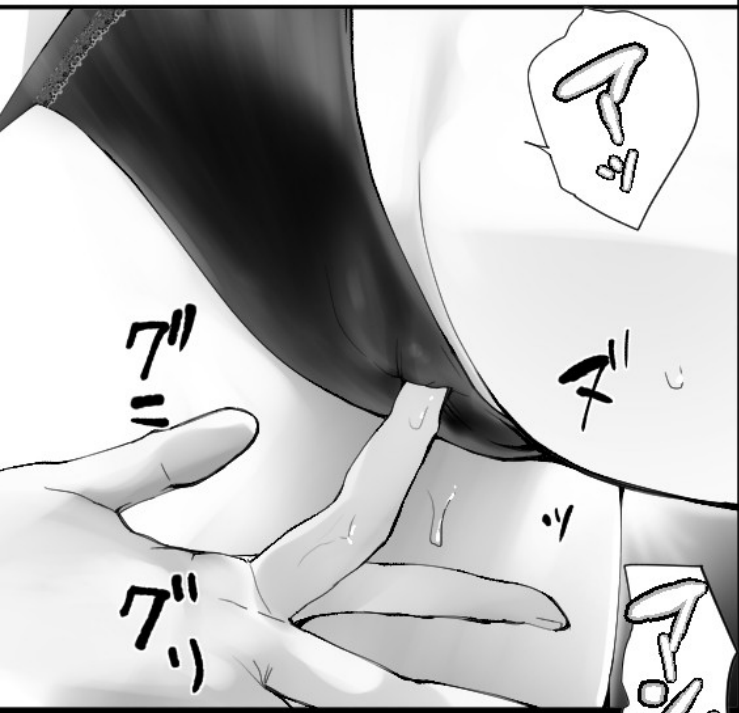
オ

オ

オ

オ

オ



.....この先

ここまで苛烈に



すごい...

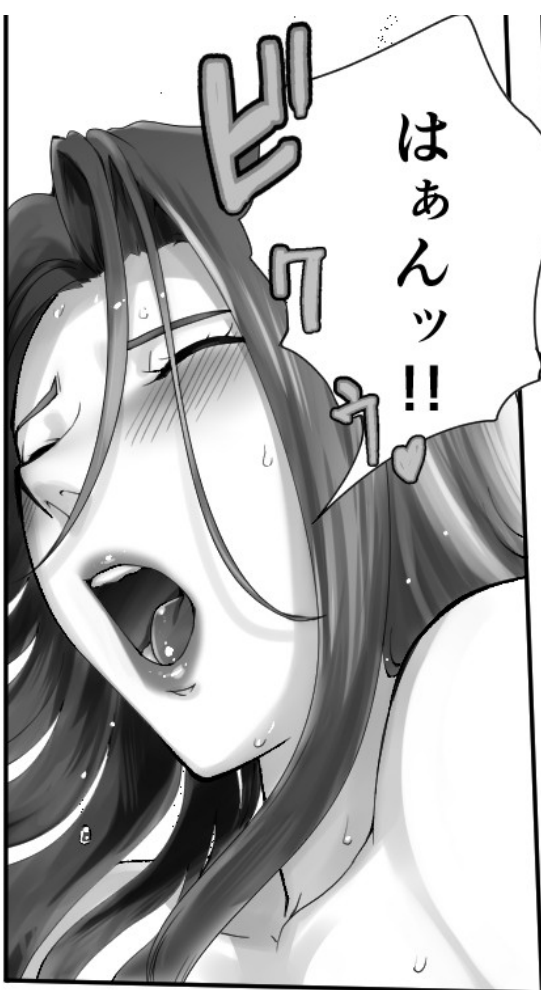


ここまで僕を
求めてくれる人が
現れるのかな...

トクツ...

トクツ...

トクツ...

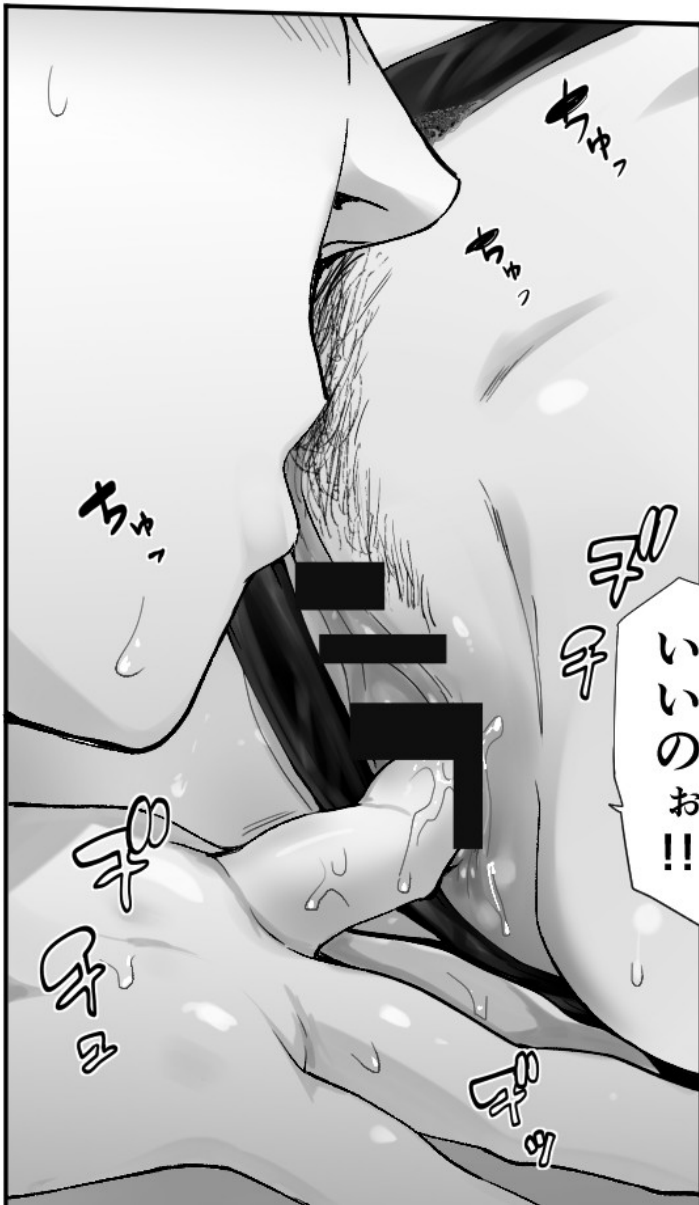


はあんツ!!



はあんツ!!

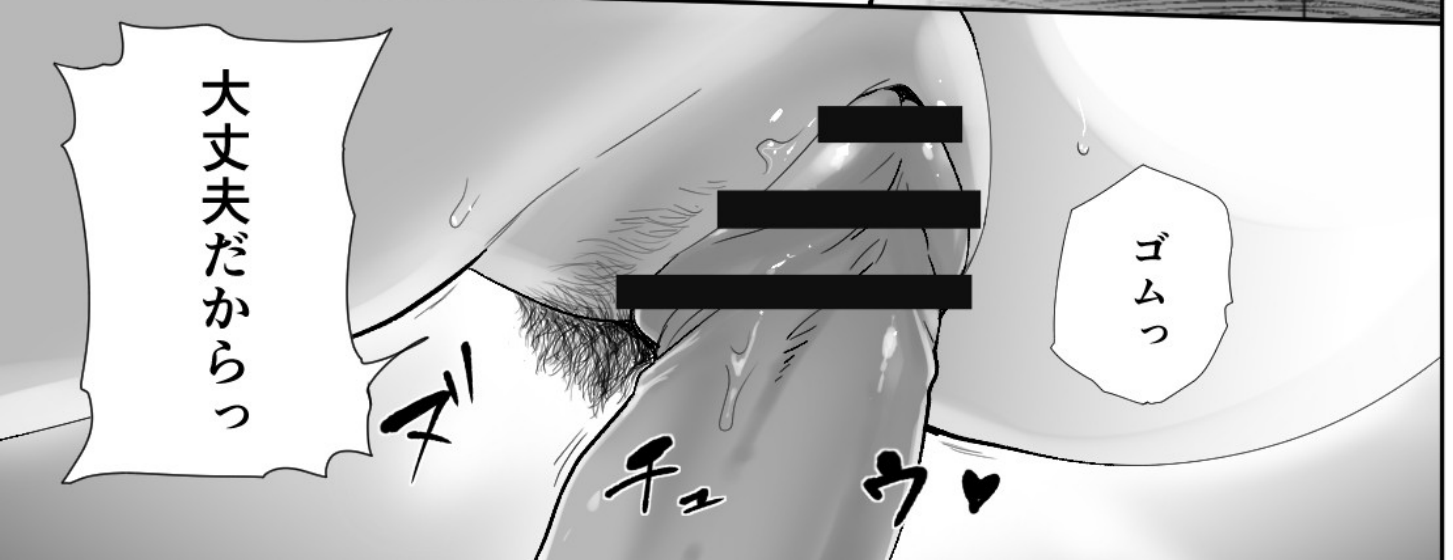
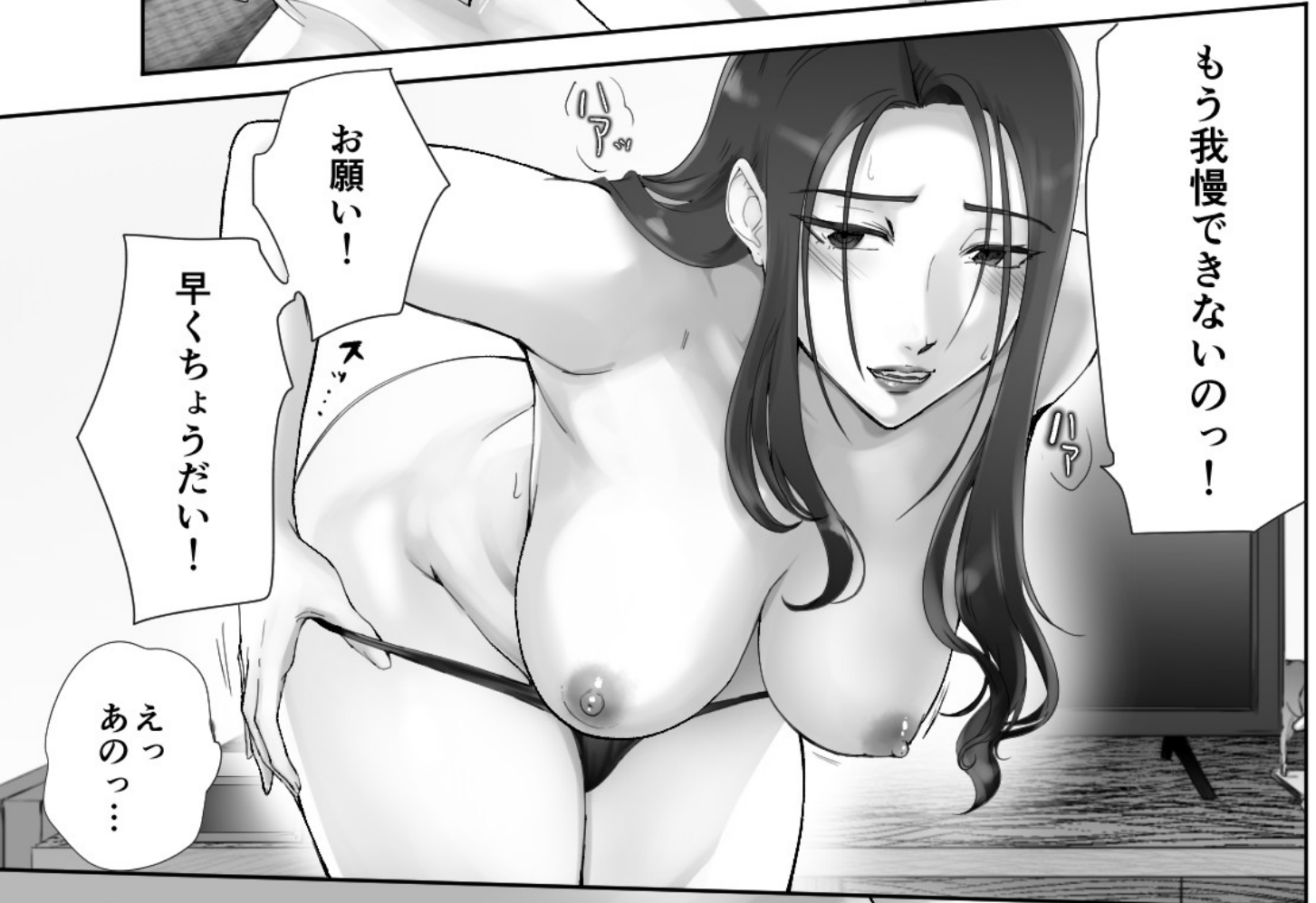
キララ!



涼真くん
いいのお!!



はあんツ!!





久々の挿入！

しかも生でッ！



おっく♡

おっく!

まっく♡

これ...

涙...?

おっ...

おっく!

おっ

おっ





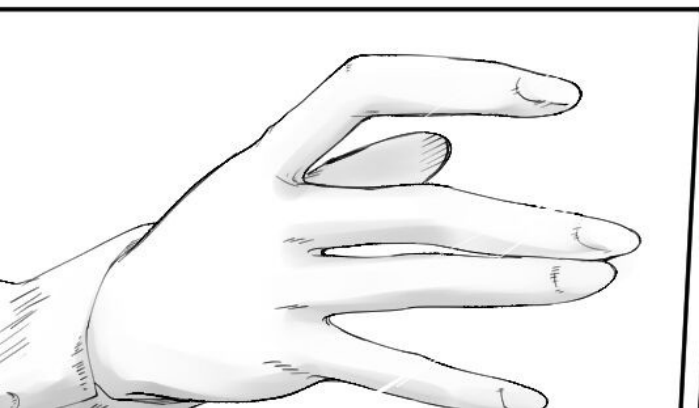
大丈夫
わかってるから

ス...

涼真くん

私のわがままに
付き合ってくれて

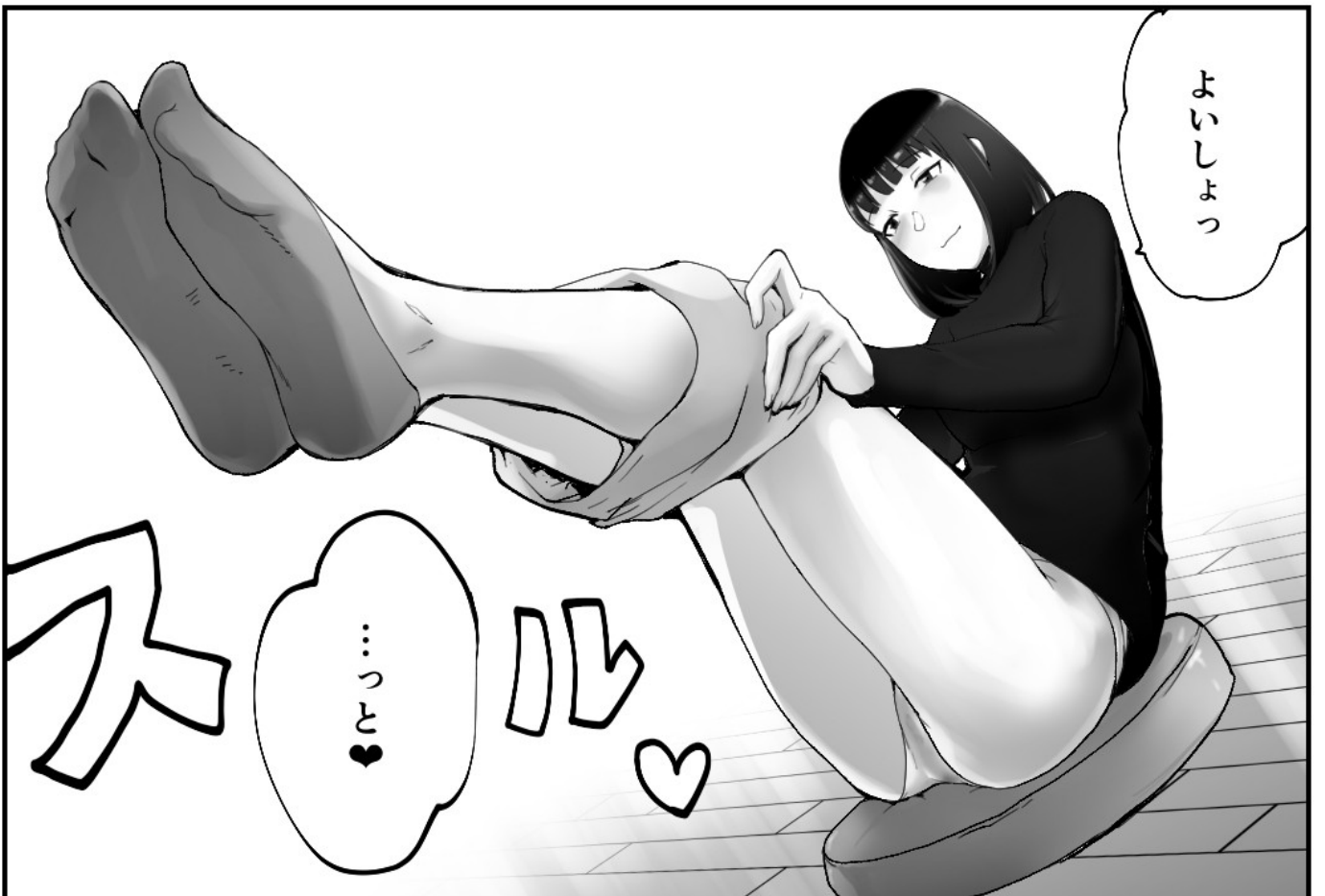
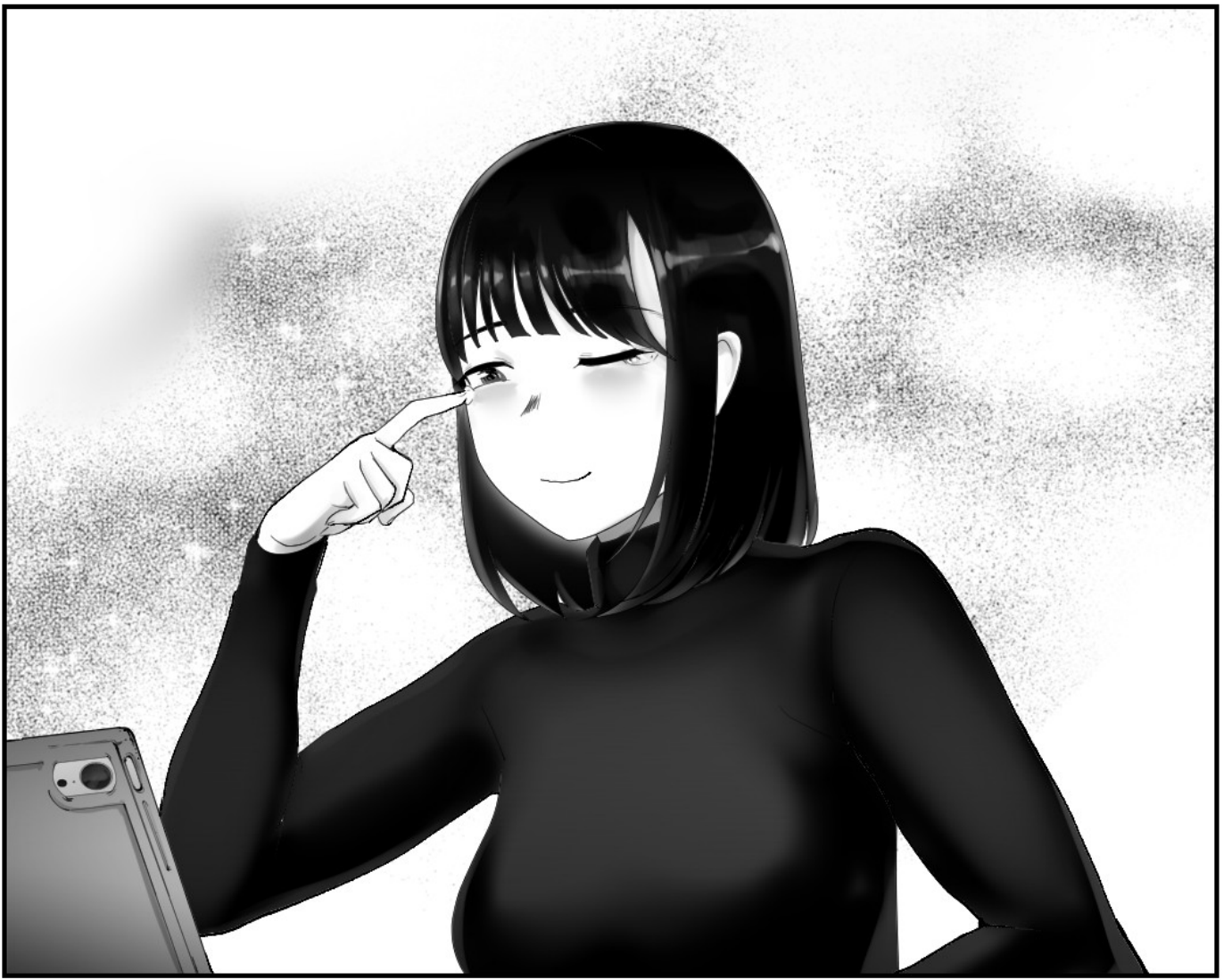
ありがとう



深野ママの想いに

僕も応えたい

僕にできることを
精一杯







涼真っ

くんっ

遅しいっ！

あゝ

あゝ

ア

ア

ア

ア

ア

駅弁じゃん！



うーわ
あれやりたい！

ア



おっ！

おっ！

おっ？

おっ！

おっ！

おっ！

おっ！

おっ！

おっ！









ハア...

ハア...

オ

回

ハア...

ハア...

ハア...

オ

回

ハア...



すごかった…

久しぶりの
涼真くんと
セックスって
いうのも
あったけど…

それ以上に
遅しくて

激しくて



僕も
よかったよ

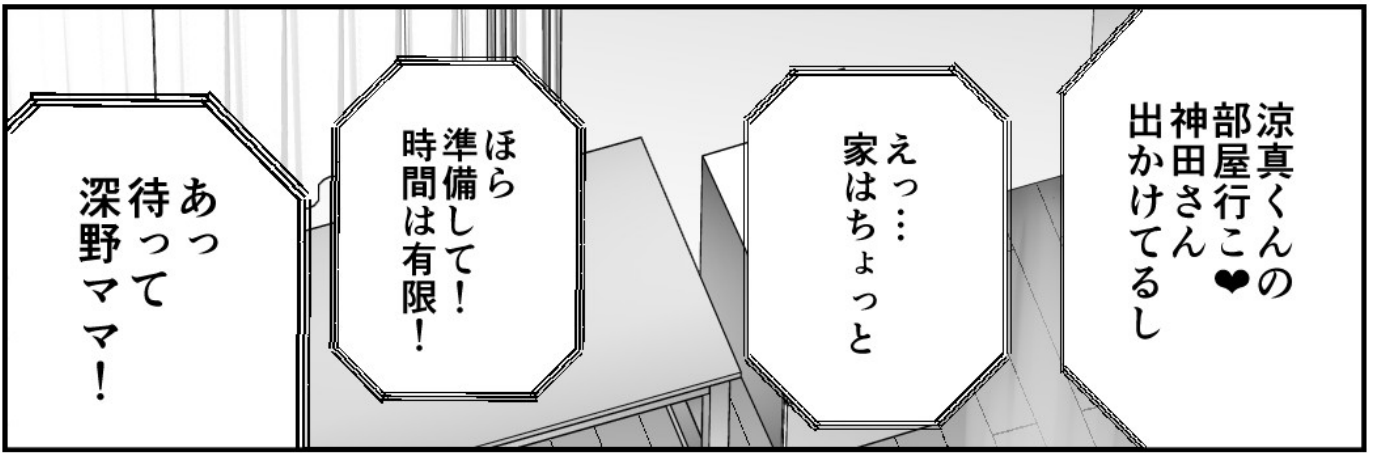


深野
ママ

うん…



気持ちよかったの…♡





撮れないかもだから
スマホでも撮ってよ

...できたらな

不自然な動きして
バレたら
深野ママにめっちゃ
怒られそう



とりあえず
リビングに置いて
おいたからさ



涼真の部屋は？
親出かけてるんでしょ？

夕方までなら
大丈夫だと思っけど...

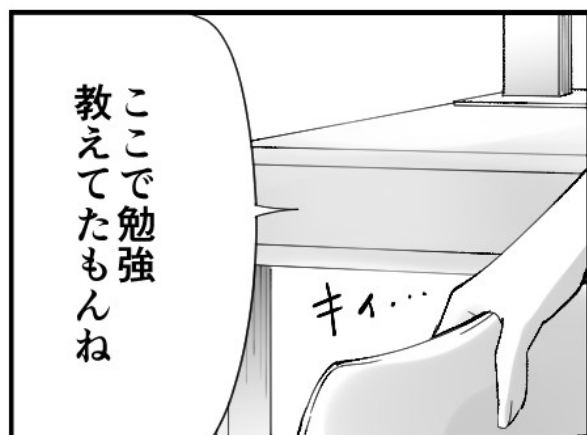
決まり！



お前は
どーすんの？

んー
流石に家に居るわけに
いかないし







カ
キ
ヤ
ア

そのまま
そつと家出てって
くれればいいんだけど…





to be continued

お買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この作品が続いているのも皆様のおかげです。
最後までよろしくお願いいたします。

ピンク太郎

次回、 最終回 (?)

(たぶん...)

(オチ 2パターンあり)
読み中...



■サークル：ピンク作品置き場

■著者：ピンク☆太郎

■この作品はフィクションです。実在する人物・団体・事件などには一切関係ありません。

■この作品を無断複写・複製・転載・転写・web上へのアップロードを禁止します。